

# 道の駅整備事業の方向性について

令和6年2月15日

全員協議会 資料

総合政策部 まちの魅力創造課

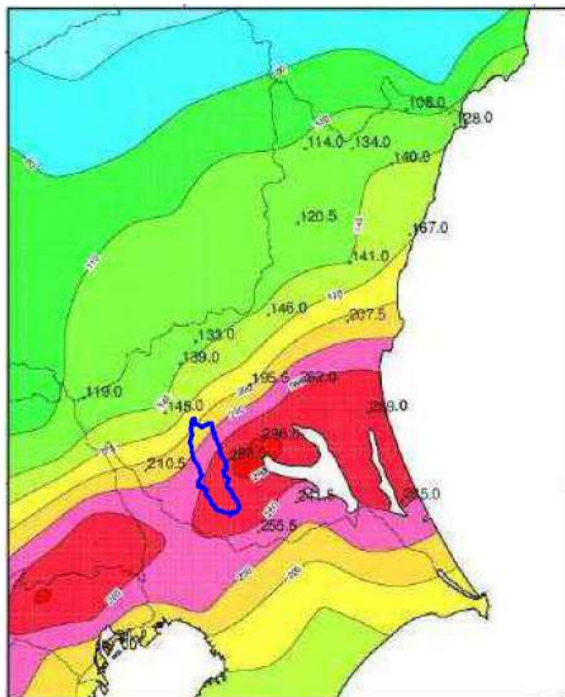
# 道の駅整備事業の方向性

再検証を踏まえて昨年3月に地域振興施設を縮小した道の駅を整備する方針を示した道の駅整備事業について、牛久沼流域における記録的大雨による牛久沼の越水を機に、以下の3つの要因により、事業を**中止**とする。

- 牛久沼越水対策検討委員会が公表した牛久沼周辺の地盤状況
- 本市の財政状況（財政収支見通し、物価などの上昇）
- 市民からの意見、市議会からの要望

道の駅基本計画に基づく道の駅整備事業は中止

# 記録的大雨による牛久沼の越水



台風2号及び梅雨前線が  
牛久沼流域で **記録的な大雨**



道の駅整備予定地  
牛久沼の水位は赤の  
破線まで来ていた。



越水①  
龍ヶ崎市稗柄町



越水②  
龍ヶ崎市佐貫町

牛久沼越水状況（令和5年6月3日）  
（第2回牛久沼越水対策検討委員会 説明資料より引用）

## 牛久沼の越水を受けて

道の駅整備予定地における越水は免れたものの、  
本市においては稗柄町及び佐貫町で越水が起こり、  
**「安全確保を最優先に取り組む」**ことを答弁。

（令和5年第2回定例会）

# 牛久沼越水対策検討委員会が公表した牛久沼周辺の地盤状況

## 【すでに分かっている牛久沼周辺の地盤状況】

- ・牛久沼周辺の地層は鬼怒川などが運んできた軟弱な沖積層
- ・この沖積層は約1万8千年前より後に堆積した新しい地層

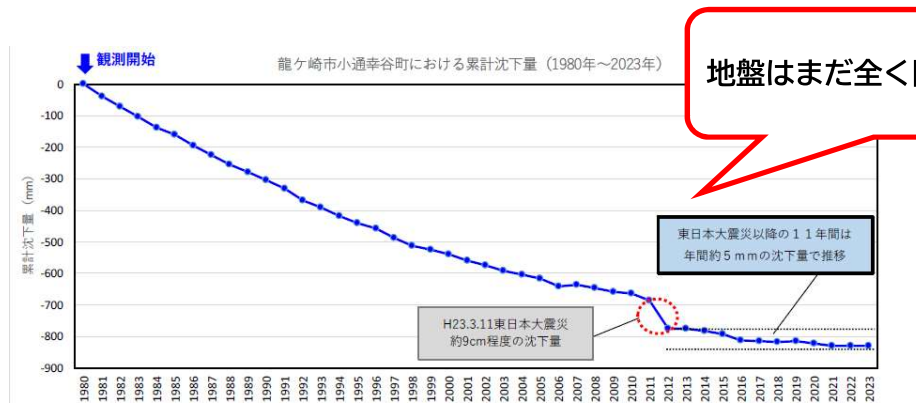


約6千年前（縄文前期）の関東平野

## 【牛久沼越水対策検討委員会が新たに公表した牛久沼周辺の地盤状況】

(第2回牛久沼越水対策検討委員会 説明資料より引用)

- ・東日本大震災以降は年間あたり約5 mm程度の沈下で推移
- ・観測開始（1980年）以降の累計沈下は約83 cm程度



地盤はまだ全く固まっていない

東日本大震災以降の11年間は  
年間約5mmの沈下で推移

H23.3.11東日本大震災  
約9cm程度の沈下量

現在も沈下が続く事象に対応するには、「設計の見直し」や「追加工事」が必要

事業費の増額は避けられない

# 本市の財政状況（財政収支見通し、物価などの上昇）

道の駅整備事業は令和4年度に再検証を実施し、整備事業費を再算定するなどした結果、地域振興施設の公設の考えを白紙にした方向性を示し、事業費の削減を図る計画を示した。

約25億6千万円（令和4年10月時点） → 約17億6千万円（令和5年3月時点）

一方、コロナ禍、ロシアのウクライナ侵攻などにより世界情勢は大きく動き、日本においても材料費、労務費の単価が上昇し、機械経費なども上がっている状況。

本市においても「教育」「福祉」といったまちづくりの根幹となる分野での小中一貫校整備や新保健福祉施設整備などにかかる工事費や、既存の公共施設の維持管理費は上昇し、本市の将来的な財政収支見通しにおいても大変厳しい状況。

鉄筋工 5.1%up	溶接工 7.3%up	型わく工 5.8%up	鉄骨工 3.1%up	異形棒鋼 70%up	H形鋼 62%up	鋼板 中厚板 80%up	フラットデッキ 41%up
防水工 9.7%up	左官 6.5%up	塗装工 10.6%up	内装工 7.6%up	鋼矢板 42%up	生コンクリート 40%up	コンクリート 型枠用合板 51%up	管柱 杉KD 29%up
電工 12.9%up	ダクト工 16.1%up	保温工 10.6%up	配管工 12.2%up	ステンレス鋼板 70%up	アルミ地金 48%up	板ガラス 74%up	ストリートアスファルト 83%up
運転手(特殊) 14.5%up	普通作業員 11.2%up	とび工 9.5%up	交通誘導警備員 A 15.5%up	600Vビニル 絶縁電線 47%up	配管用炭素鋼 鋼管 57%up	硬質ポリ塩化 ビニル管 23%up	軽油 36%up

【参考】

長山中学校区小中一貫校整備

約35.8億 → 約44億

第3次中期財政計画

実施設計修正案  
(令和5年8月庁議)

公共工事設計の労務単価と資材単価の上昇  
一般社団法人日本建設業連合会より(2023.11公表)

# 市民からの意見、市議会からの要望

## 【越水以降の市民の意見（要旨）】

- ・道の駅整備の前に治水
- ・地盤沈下が進んでいる地域。治水対策は必要。
- ・かなりの予算をかけてやる必要はあるのか。それよりもほかの事業を推進してほしい。
- ・計画はあきらめて仕切り直しすべき。 など

## 【市議会からの要望（抜粋）】（令和5年12月11日）

再検証後の整備計画に基づく道の駅整備事業については、市民意向の反映、事業の優先順位、整備コスト、集客機能、立地適正など、課題が山積していることが明らかである。

以上のことから、事業の中止も含めて、適切な判断を求める。

# むすび

道の駅整備事業は牛久沼の有効活用と本市のにぎわい創出などを目的として平成27年度から進めてきた。

この間、護岸改修工事は想定以上の軟弱地盤等の影響により中止の事態となり、整備スケジュールが不透明になるとともに、設計の見直しにより工事費が膨らむなど様々な課題により事業が停滞する状態となった。

その中において、昨年6月に発生した牛久沼の越水は周辺に2件の床上浸水、20件の床下浸水を起こし、安全性を危惧する声があがるなど、道の駅整備事業の推進はさらに厳しいものとなった。

また、牛久沼越水検討委員会によって明らかになった牛久沼周辺の継続的な地盤沈下への対応には更なる事業費の増加が避けられず、整備コストの削減が求められている中で、牛久沼のポテンシャルを活かす手法の一つとして「道の駅整備事業」の実施は難しいとの判断に至った。



**よって、道の駅整備事業は中止**